

## 《阪本昌成先生業績目録》

### I 著 書（単著）

- 一九九八年  
『リベリズム／デモクラシー』 有信堂
- 一九九七年  
『憲法理論Ⅱ〔第2版〕』 成文堂
- 一九九五年  
『憲法理論Ⅲ』 成文堂
- 一九九三年  
『憲法理論Ⅱ』 成文堂
- 一九九二年  
『憲法理論Ⅰ』 成文堂
- 一九九〇年  
『コミュニケーション行為の法』 成文堂
- 一九九〇年  
『身元調査とプライバシー』 解放出版社
- 一九八九年  
『ベーシック憲法——憲法学の基礎とその周辺』 弘文堂
- 一九八六年  
『プライバシー権論』 日本評論社
- 一九八三年  
『情報公開と表現の自由』 成文堂
- 一九八二年  
『プライバシーの権利』 成文堂
- 二〇〇八年  
『表現権理論』 信山社
- 二〇〇六年  
『新・近代立憲主義を読み直す』 成文堂
- 二〇〇六年  
『憲法2 基本権クラシック〔全訂3版〕』 有信堂
- 二〇〇四年  
『法の支配 オーストリア学派の自由論と国家論』 勁草書房
- 二〇〇四年  
『憲法1 国制クラシック〔第2版〕』 有信堂
- 二〇〇二年  
『リベリズム／デモクラシー〔第2版〕』 有信堂
- 二〇〇二年  
『憲法2 基本権クラシック〔第2版〕』 有信堂
- 二〇〇〇年  
『「近代」立憲主義を読み直す』 成文堂
- 一九九九年  
『憲法1 国制クラシック』 有信堂
- 一九九九年  
『憲法理論Ⅰ〔補訂第3版〕』 成文堂
- 一九九九年  
『憲法2 基本権クラシック』 有信堂
- 一九九九年  
『憲法理論Ⅰ〔第3版〕』 成文堂

## Ⅱ 共 著

一九九五年  
『顧客リスト取引をめぐる法的諸問題』（堀部政男ほか）成文堂

### 堂

一九九四年

『比較憲法入門』（アメリカ合衆国憲法担当）（阿部照哉ほか）

### 有斐閣

一九八八年

『考える憲法』（樋口陽一ほか）弘文堂

## Ⅲ 編 著

二〇一〇年

『謎解き 日本国憲法』有信堂

二〇〇五年

『憲法フォーラム〔補訂版〕』（畑博行と共編）有信堂

二〇〇一年

『これでわかる!? 憲法〔第2版〕』有信堂

二〇〇〇年

『立憲主義——過去と未来の間』有信堂

一九九八年

『これでわかる!? 憲法』有信堂

一九九四年

『憲法フォーラム』（畑博行と共編）有信堂

一九八〇年

『人権の司法的救済』（村上武則と共編）有信堂

## Ⅳ 論 説 等

二〇一〇年

『日本国憲法研究10 プライバシー』（コメンテーターとして

発言）ジュリスト一四一二号

『思想の自由市場』論の組み直しに向けて』立教法学八〇号

『小島報告』著作権と表現の自由』へのコメント』全国憲法

研究会編『憲法問題』二二号

『財の自由市場とアイディアの自由市場』『季刊企業と法創

造』二二号（早稲田大学グローバルCOE総合研究所）

『憲法上の経済的自由との関係』（舟田正之ほか編『経済法判

例・審決百選』所収）別冊ジュリスト一九九号

二〇〇九年

『プライバシーの権利と表現の自由（2・完）』立教法学七七

号（法学部創立五〇周年記念（中））

『プライバシーの権利と表現の自由（1）』立教法学七六号

（法学部創立五〇周年記念（上））

二〇〇八年

『行政権』の概念』（大石眞Ⅱ石川健治編『憲法の争点』所

収）ジュリスト増刊

『プライバシーの権利と個人情報保護』（佐藤幸治先生古稀

記念論文集『国民主権と法の支配「下巻」』所収）成文堂

「名誉・プライバシー」（杉原泰雄編集代表『新版・体系憲法事典』所収）青林書院

二〇〇七年

「武力行使違法化原則のなかの9条論」ジュリスト一三三四号

「解説」（気賀健三・古賀勝次郎訳『ハイエク全集6』所収）春秋社

「輸入書籍・図画等の税関検査」（高橋和之ほか編『憲法判例百選Ⅰ「第5版」』所収）別冊ジュリスト一八六号

二〇〇六年

「第4の権力——マスメディアの位置と機能」ジュリスト一三一一号

二〇〇五年

「法的な見解の表明と意見・論評——『脱ゴーマニズム宣言』事件」（堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』所収）別冊ジュリスト一七九号

「憲法と人権の意義と重みを問う——自由な市民社会の領域を確保するために」新聞研究六四三号

二〇〇四年

「法律の世界における公私と公共性」（長谷部恭男・金泰昌編『公共哲学12』所収）東京大学出版会

「戦後憲法学批判」調研クオータリー（読売新聞調査研究本部）

二〇〇三年

「世紀転換期の憲法理論——モンテスキューカルソーか」公法研究六五号

二〇〇一年

「包囲されるプレスと自由」法学セミナー五六四号

「首相公選論の背景にあるもの——首相公選論を考える」ジュリスト二二〇五号

「人権と公共の福祉」（憲法学を問う）（市川正人と対論）（のち、浦部法穂ほか編『いま、憲法学を問う』（日本評論社、二〇〇一年）所収）法学セミナー五五三号

「経済的自由」ジュリスト一一九二号

二〇〇〇年

「表現の自由を支えるもの」新聞研究五九一号

「脱リーガル・モラリズムの重大な一歩」新聞研究五六六号

「権力分立の再位置づけ」（『アエラムック 憲法がわかる。』所収）朝日新聞社

「立憲主義の歴史とその展開」（畑博行先生古希記念『立憲主義——過去と未来の間』所収）有信堂

「近代啓蒙思想における合理主義と伝統主義」（伊藤満先生米寿記念論文集『憲法と行政法の現在』所収）北樹出版

「司法制度改革の基礎にあるもの——憲法学の視点から」ジ

ユリスト一七〇号

一九九九年

「立憲主義の展開と国家の役割」北大法学論集五〇巻四号

「行政権の概念」(高橋和之・大石真編『憲法の争点』(第3版) 所収) ユリスト増刊

一九九八年

「国家は何をなすべきか」ユリスト一一三三三号

「自由主義憲法学の課題」(佐藤幸治先生還暦記念論文集『現代立憲主義と司法権』所収) 青林書院

「議院内閣制における執政・行政・業務」(佐藤幸治ほか編『憲法五十年の展望Ⅰ 統合と均衡』所収) 有斐閣

「集会の自由と公園の使用」,「表現の自由と集団示威運動」,

「表現の自由とわけいせつ文書」ほか(杉原泰雄編著『判例マニユアル憲法Ⅱ 人権2』所収) 三省堂

一九九七年

「司法審査制と職務執行命令訴訟——いわゆる沖繩代理署名訴訟」(平成八年度重要判例解説) 所収) ユリスト臨

時増刊

一九九六年

「法の支配」復権のための覚書」広島法学二〇巻二号

「情報公開法要綱案(中間報告)を読んで——リベラリストの目から『要綱案』を読む」ユリスト一〇九三三号

「信教の自由」ユリスト一〇八九号

「プライバシーの権利性(『宴のあと』事件)」(樋口陽一・野中俊彦編『憲法の基本判例』(第2版) 所収) 法学教室増刊

一九九五年

「反啓蒙思想あるいはもう一つの啓蒙思想の憲法学に向けて」(憲法理論研究会編『人権保障と現代国家』所収) 敬文堂

「プライバシーと自己決定の自由」(樋口陽一編『講座・憲法学 第3巻 権利の保障』所収) 日本評論社

「基本的人権の意義」「基本的人権の種類」「基本的人権の主体」(阿部照哉ほか編『憲法2 基本的人権Ⅰ』所収) 有斐閣

斐閣

一九九四年

「表現の自由とプライバシー」その他二件(司法試験シリース『憲法Ⅰ』所収) 日本評論社

「現代のプライバシーの諸相」新聞研究五一三三三号

「わけいせつ文書の頒布禁止と表現の自由——チャタレイ事件」(芹部信喜・高橋和之編『憲法判例百選Ⅰ』(第3版) 所収) 別冊ユリスト一三〇号

一九九三年

「メイリング・リストの作成・販売およびダイレクト・メールの法的規制——アメリカの動向」広島法学一六巻四号

一九九二年

「ダイヤルQ2の『アダルト番組』の法的規制は可能か——

憲法の観点から」法学セミナー四五〇号

「ダイヤルQ2の法的問題を探る」東書高校通信三一七号

「表現の自由 憲法二二条」法学教室一四一号

「ダイヤルQ2の内容規制」(電話回線を利用した有料サービスに関する法律問題についての調査研究報告書)所収) 財団法人比較法研究センター

「書評『メモがとれない』」法学教室一三九号

一九九一年

「個人情報保護と自己情報コントロール権」法律のひろば

四四卷五号

「言語哲学から法学は何を学べるか」広島法学一四卷四号

「憲法第八章(地方自治)」(佐藤幸治編『要説コンメンター

ル日本国憲法』所収)三省堂

一九九〇年

「名誉・プライバシーの侵害と表現の自由」ジュリスト九五

九号

「情報化社会」の情報公開とプライバシー」新聞研究四六

六号

「情報化社会における情報へのアクセス」自由と正義四一卷

一号

「発話行為としての表現」(畑博行先生還暦記念論文集『人權の司法的救済』所収) 有信堂

「プライバシー概念再訪」(伊藤満先生喜寿記念論文集『比

較公法学の諸問題』所収) 八千代出版

「論文紹介 Robert C. Post : Between Governance and

Management——The History and Theory of the Public

Forum, 34 UCLA L. Rev. 1713 (1987)」アメリカ法

[1989-2]

「取材源の司法警察職員による差押(TBS事件)」法学教室

一一三三二号

一九八九年

「国會議員とプライバシー」法学セミナー四一九号

翻訳「ハワード、表現の自由とは何か」トレンド一九八九年

一〇月

「ノンフィクション『逆転』訴訟」(昭和六三年度重要判例

解説)所収)ジュリスト臨時増刊

一九八八年

「精神的自由」(佐藤幸治編著『憲法Ⅱ』所収) 成文堂

「政治宣伝」という法律用語の使用と修正一条——Meese v.

Keene, 107 S.Ct. 1862 (1987)」(岩倉秀樹と共著) (関西

アメリカ公法研究会「アメリカ連邦最高裁公法判例の動

向(一九八六〜八七年開廷期)」判例タイムズ六七五号

「憲法二二条の構造と機能」公法研究五〇号

「アメリカ合衆国におけるプライバシー保護——市民意識、法制、運用実態そして今後」法律のひろば四一卷三号

「ノンフィクション作品によるプライバシー侵害」月刊法学  
教室九一号

「わいせつ文書の頒布禁止と表現の自由——チャタレイ事件」  
〔若部信喜・高橋和之編〕憲法判例百選Ⅰ〔第2版〕所  
収〕別冊ジュリスト九五号

「新聞紙上の意見広告に対するいわゆる反論文掲載請求権が  
否認された例（最二判62・4・24）」判例評論三五四号  
（判例時報二二七六号）

一九八七年

「『アクセス権』覚書（サンケイ新聞意見広告訴訟最高裁判決  
をめぐって）」新聞研究四三二二号

「知る権利の意味とその現実」ジュリスト八八四号

「プライバシーの権利とはなにか」ライフサイエンス一四卷  
五号

一九八六年

「名誉の保護と司法的事前抑制」法律のひろば三九卷一〇号

「アメリカ（情報公開と個人情報保護）」比較法研究四八号

「プライバシー権と事前抑制・検閲——主に表現の手続的  
保障の視点から」ジュリスト八六七号

「宗教の自由、表現の自由、学問の自由」（畑博行編）判例憲  
法入門〕所収〕有信堂

〔論文紹介 Comment : Confidentiality of Genetic Information,  
30 UCLA L. Rev. 1238 (1983)〕アメリカ法 [1986-1]

「表現の自由とプライバシー——真実公表の限界」ジュリ  
スト八五四号

「部落差別調査規制条例と営業の自由」（部落解放同盟編『憲  
法と部落問題』所収）解放出版社

一九八五年

「住民基本台帳の公開とプライバシーの保護」ジュリスト八  
三五号

「通信の自由・通信の秘密」への新たな視点」法学セミナー  
三六四号

「税関検査における手続的保障と実体的合憲判定基準」判例  
時報一一三九号

「『知る権利』の憲法論的再検討」法律時報五七卷三号

「『人格権』に基づく自己情報訂正請求権——在日台湾人調査  
票訴訟東京地判昭和五九年一〇月三〇日を素材にして」  
ジュリスト八二九号

「判例の動向——攻撃的多数派主義の時代へ」（関西アメリカ  
公法研究会「アメリカ連邦最高裁判例の動向（一九八三

～八四年開廷期）」判例タイムズ五六四号

「情報と自由」、「人権の保障と情報」の各項目を担当（広島  
平和文化センター編『平和事典』所収）勁草書房

一九八四年

「プライバシーと表現の自由——事前抑制の問題を中心に」  
法学セミナー三五九号

「アメリカ連邦プライバシー法における閲覧・訂正権」法律時報五六卷一一号

「性表現」ジュリスト八一二号

「プライバシーの法的保護」(産業研究所編『新産業革命の社会構造に対するインパクトに関する研究』所収) 産業研究所

「放送法上の公平原則」(『放送文化研究報告書』所収)

判例紹介「修正一条とパブリック・フォーラム——United States v. Grace, 103 S.Ct 1702 (1983)」(関西アメリカ公法研究会「アメリカ連邦最高裁公法判例の動向」(一九八二～八三年開廷期)) 判例タイムズ五三五号

「プライバシー権——憲法の基本問題」法学教室四一号

一九八三年

「優先処遇と平等権」公法研究四五号

「わいせつ物規制と表現の自由の基本理論」法学セミナー三四三三

四三三

「アメリカの情報公開法(FOIA)における法執行関係文書の取扱い」刑法雑誌二五卷二号

「博多駅前TVフィルム提出命令事件」ほか二件(中川淳編集代表『判例辞典』所収) 六法出版社

「判例回顧(一九八三年憲法)」(横藤田誠と共著) 法律時報

五五卷一号

一九八二年

「プライバシーの権利——公権力による写真撮影を中心として」判例タイムズ四六四号

「行政情報の公開・非公開」NBL二五八号

「四畳半襖の下張」事件上告審判決」月刊法学教室六号

「表現の自由と事前の抑制」法学セミナー三二六号

「税関検査違憲判決」Law School 一二二二

「システム設置・情報収集の制限」(『行政管理庁プライバシーシ—研究会報告書』所収)

判例回顧(一九八二年憲法)」(横藤田誠と共著) 法律時報五四卷一号

一九八一年

「プライバシー保護立法の問題点(2)——個人情報システムの規制のあり方」季刊行政管理研究一六号

「行政情報の公開と非公開」(『日本情報処理開発協会報告書』所収)

「アメリカ(プライバシー保護法の比較的研究)」比較法研究四三三

「統計情報の利用・公開」統計の泉三七四号

「プライバシー保護立法の問題点(1)——プライバシーの利益の類型化」季刊行政管理研究一五号

「表現の自由と名誉毀損——『月刊ペン』事件最高裁判決を

機縁とする一試論」(藤田浩と共著) 法学セミナー三一

八号

「犯罪情報とプライバシー——アメリカにおける自動化システムをめぐる議論から」法律時報五三卷九号

「アメリカのプライバシー保護法」ジュリスト七四二号

「プレスと自由とアクセス権——サンケイ新聞意見広告訴訟

控訴審判決を機縁とする一試論」法学セミナー三一 号

「優先処遇と平等原則——審査基準と実体的価値」Law

School 二八号

一九八〇年

「わいせつ物規制に関する日米の比較法的考察」判例タイム

ス四二二号

「プライバシー保護法と情報公開法」法律時報五二卷四号

「わいせつ文書の頒布禁止と表現の自由——チャタレイ事件」

(芦部信喜編『憲法判例百選Ⅰ』所収) 別冊ジュリスト

六八号

「『わいせつ』判断の客観化——四畳半襖の下張事件」法学セ

ミナー二九九号

座談会「迷惑電話」ジュリスト七二三号

「下級裁判所の法令審査権」ほか三件(阿部照哉編『判例叢

書』所収)

「地方議会の改憲の動きについて」地方公務員研修一五八号

書評「Tom Gerety, Redefining Privacy (1977)」アメリカ法

[1980-1]

判例紹介「FCC v. Pacifica Foundation, 438 U.S. 726, 98 S.Ct.

3026 (1978)——下品なラジオ放送の FCC による規制と表現の自由」アメリカ法 [1980-1]

判例紹介「Carey v. Population Services International, 431 U.

S. 678 (1977)——ニュー・ヨーク州法による避妊用製品の

販売・頒布制限は、プライバシーの権利を侵害す

る」アメリカ法 [1979-2]

翻訳「バックキー事件における主要なブリーフ(5・完)——

アメリカン・ロー・スクール協会の法廷助言者ブリー

フ」(西村裕三と共訳) 広島法学四卷二二号

翻訳「バックキー事件における主要なブリーフ(4)——全米医

科大学協会の法廷助言者ブリーフ」(西村裕三と共訳)

広島法学四卷一号

翻訳「バックキー事件における主要なブリーフ(3)——合衆国

のブリーフ」(西村裕三と共訳) 広島法学三卷四号

一九七九年

翻訳「バックキー事件における主要なブリーフ(2)——キャリ

フォーニア大側のブリーフ」(西村裕三と共訳) 広島法

学三卷三号

翻訳「バックキー事件における主要なブリーフ(1)——バック

キー側のブリーフ」(西村裕三と共訳) 広島法学三卷二二

「わいせつ性判断の基準」(昭和五四年度重要判例解説) 所

収)ジュリスト臨時増刊

「逮捕記録の廃棄・補正等を求める権利——2・完」広島法学



三卷一号

「逮捕記録の廃棄・補正等を求める権利——」[広島法学二卷四号]

「わいせつ文書頒布禁止と表現の自由」(中川淳ほか編『ケースメソッド法学・憲法入門』所収) 有信堂

一九七八年

「Sex Laws in Japan」[広島法学二卷二・三号]

「重要判例紹介・戦争の放棄」(総合特集シリーズ7『戦争と自衛隊』所収) 法学セミナー増刊

一九七七年

書評「Raoul Berger, Executive Privilege: A Constitutional Myth (1974)」[アメリカ法 [1976-2]]

一九七六年

「プライバシーへの省察」[政経論叢二六卷二号]

「プライバシーの権利」(奥平康弘ほか編『憲法学2 人権の基本問題』所収) 有斐閣

一九七五年

「道徳とプライバシー(5完)」[政経論叢二五卷三・四号]

「道徳とプライバシー(4)」[政経論叢二五卷二号]

一九七四年

「道徳とプライバシー(3)」[政経論叢二四卷四・五号]

「道徳とプライバシー(2)」[政経論叢二三卷五・六号]

書評「ゴールドスタインⅡカントⅡハートマン」[ポーノグラ

フィと性的逸脱」[政経論叢二四卷四・五号]

一九七三年

「わいせつ」という名の神話」[政経論叢二三卷二号]

「道徳とプライバシー(1)」[政経論叢二三卷一号]

書評「Don R. Pember, Privacy and the Press——The Law, the Mass Media, and the First Amendment (1972)」[政経論叢二二卷五・六号]

一九七二年

「堕胎とプライバシー」[政経論叢二二卷三・四号]

「憲法とプライバシーの権利」[神戸法学雑誌二二卷一号]

V 随 想

二〇〇二年

「判例をとおしてみる憲法の話(10…完)」[憲法徒然草] vs. 「贋作憲法徒然草」[書斎の窓五二二号]

「判例をとおしてみる憲法の話(9)二重の基準論 vs. 三重の基準論」[書斎の窓五一一号]

二〇〇一年

「判例をとおしてみる憲法の話(8)公共の福祉 vs. 人権保障」[書斎の窓五一〇号]

「判例をとおしてみる憲法の話(7)積極目的規制 vs. 経済的規制」[書斎の窓五〇九号]

「判例をとおしてみる憲法の話(6)仕切られた競争 vs. 自由競

争」書斎の窓五〇八号

「判例をとおしてみる憲法の話(5)国家 vs. 市場」書斎の窓五〇七号

「判例をとおしてみる憲法の話(4)人権保障規定 vs. 制度保障規定」書斎の窓五〇六号

「判例をとおしてみる憲法の話(3)『宗教上の行為』 vs. 『宗教的活動』」書斎の窓五〇五号

「判例をとおしてみる憲法の話(2)行政国家 vs. 司法国家」書斎の窓五〇四号

「判例をとおしてみる憲法の話(1)語りうるもの vs. 語りえないもの」書斎の窓五〇三号